英米文学科・立教英米文学会　活動報告

立教英米文学会

2004年12月４日

＜研究発表＞　石川　太郎（立教大学大学院英米文学専攻後期課程在籍）
“a tongue that is not mine”：A Study of Samuel Beckett's *The Unnamable / L'innomable*

福島　麻子（立教大学大学院英米文学専攻後期課程在籍）
英国からの船出――ヴァージニア・ウルフとイングリッシュネス

笠原　一郎（東京理科大学非常勤講師）
アナロジーによる誤謬――ロバート・フロストとメタファー

＜講演会＞　小池　昌代（詩人）
アメリカ文学とわたし

公開講演会

2004年７月４日　Mark Richardson（同志社大学文学部助教授）
Robert Frost's Civil War : A Reading of 'The Black Cottage'"
（ロバート・フロストの南北戦争：「黒い小屋」を読む）

2004年７月10日　Lawrence Breiner（ボストン大学英米文学科教授／東京大学訪問研究員）
Derek Walcott the Caribbean Poet, His People, and His Audience
（デレック・ウォールコット：カリブ海の詩人、その民衆、その聴衆）

2004年12月21日　本田　正文（ハワイ大学ヒロ校助教授・ハワイ日本人センター所長）
ハワイ、アメリカ、そして世界へ：日本民族の移動

講演会

2004年10月9日　Wm. Thomas Hill（上智大学文学部教授）
Querencia : That Place in the American Heart in Ernest Hemingway's *Death in the Afternoon*

〈編集後記〉

本年度もあわただしく過ぎようとしております。

本年度のあわただしさはまた格別でした。それは立教大学文学部の改編にかかわることで、我が英米文学科も、残念ながら、例外というわけにはまいりませんでした。

「でも文学研究ばかりは特別」、そう言うつもりは、しかしながら、ありません。

乾坤一擲と呼ぶほかはない論文、どうぞご投稿ください、これまでのように。

しかし、左手でかかる火の粉を振り払いながら、エイヤとやっつけた論文もまた。

「生きている」論文、しがみついてがんばってるな、くたびれても腐らず、不敵にやってるな、こういう論文、大歓迎いたします。

どうぞ皆様お元気で。

（文責　後藤　和彦）